

経済教育学会 春季研究集会 発表要旨

2012年3月7日（土）、城西国際大学東京紀尾井町キャンパス: <https://www.josai.jp/access/>

* 発表者から提出されたものをそのまま掲載しています。

* 参加者におかれましては、発表要旨を各自でプリントアウトしてご用意ください

<https://isee.ecoedu.jp/>

	氏名	所属	テーマ	発表要旨
1	土居拓務、水野勝之、小岩利夫、飯塚紗彩、大坪実咲希、佐藤菜々子、辻貴子、藤井紫水	明治大学客員研究員、明治大学教授、橘学苑学校長、以下明治大学商学部学生	ニュージーランド調査に関するアクティブラーニングの試行-日本人高校生ガイドによる経済のふしぎ発見プロジェクト	日本人は、英語力が足りず、国際性に欠けるといわれている。大学生でも英会話ができる人は少ない。国際交流をしようとしている人も少ない。グローバル社会が進展する現在、日本において英語力と国際性を身に付けた人材の育成が必要である。そのため、新しい教育方法を生み出した。海外の英語圏の国において日本の高校生と大学生が街頭調査をするという試みを行った。2019年8月、ニュージーランドのクライストチャーチで高校生と大学生とが連携して、街頭アンケート調査、「経済のふしぎ発見と解決」の2つのアクティブラーニングを経験した。前者では、日本から準備していったアンケートの質問項目に該当で現地の人に答えてもらうというものだった。後者では、彼らが街を歩き、街で不思議に感じたことを収集してきて、次の日、直接現地の人にインタビューしてその回答を得るというものである。はたして、大学生と高校生が組んで、英語でのアンケート調査を行ったり、ふしぎの回答が得られたりするものであろうか。その結果、高校生と大学生にはどのような力が身に付くのであろうか。これはその実験授業の実施報告である。
2	市野泰和	立命館大学経済学部教授	経済数学での『学び合い』の実践	『学び合い』とは、2000年代に上越教育大学の西川純教授によって提唱された、おもに小学校での授業を対象とした授業方法であり、「一斉授業」と対比されるものである。典型的な『学び合い』の授業で、教員は開始時にその日の課題、目標、および、目標に到達したかどうかを測る方法を子どもたちに提示する。子どもたちは、相談したり教えたり教えてもらったりしつつ、各自のペースで課題に取り組む。教員は、クラス全体を見渡しながら、子どもどうしをつなげたり、求められれば個別にヒントを出したり考え方を教えたりする。最後に、全員が目標に到達したかどうかを確認して授業は終わる。私は、2018年度に、大学の経済数学の授業で反転授業と『学び合い』を行った。教育系の学部以外では、大学で『学び合い』が行われるのはまれである。この発表では、まず、『学び合い』が一般的なグループワークなどとどう異なるのかを概観し、次に、経済数学での反転授業のデザインを解説する。また、学生どうしのやりとりを促すために取り入れた工夫を紹介し、大学で『学び合い』を行うさいの大学特有の問題を指摘する。最後に、実践結果、反省点、改善方法を報告する。

3	岩田順敬（関西大）、武井康浩（みずほ情報総研）、楚天舒（千葉大）、李必恒（芝浦工大）	関西大学・特任准教授	フーリエ解析的手法による色彩を用いた時系列データの分析	フーリエ解析では時系列データに周期性を仮定し異なる周期が混ざり合った重ね合わせととらえることで、内在する循環性を分析する。著者らはこれまでにフーリエ解析の手法とコンピュータによる高速フーリエ変換を併用することで、為替や株価といった時系列データを分析するための一連のソフトウェアを開発してきた。本発表では、得られた結果を色彩的に表現する技法を新たに提案することで、データに内在する数理的性質について考察する。次に異なるデータ間での周波数分布等の相関関係についても議論する。最終的に、これらの開発された技法を用いて、様々な時系列データについて循環性と特異な現象の発現の可能性について考察する。
4	小川健 (OGAWA, Takeshi)	専修大学・経済学部(国際経済学科)	外貨建て保険の国際金融・学部生用講義内容への組み込み	国際金融の重要なテーマの1つに外国為替レートがあるが、外国に出たことが無い学生だとその重要性を学部生のうちに実感することは少ない。その一方で、日本が長年低金利政策を取り続けた結果、日本でもUS\$建てや豪\$建てなど外貨建て保険が一般にも登場してきた。特に保険商品は30-40年位の長期の契約を社会人になって経験年数の浅い場合に契約する事例もあるが、日本円建ての保険の内容以外に外国為替リスクなどを理解しないといけない。現に為替リスクを十分に理解していないままの契約や、潜在的な手数料を理解していないままの契約によるトラブルも政府から警告が出る程度に起きている。しかし、学部生で学び終えて社会に出る学生に伝えるには大学教育内しかなく、しかも科目適性を考えると外国為替について扱える国際経済・国際金融の科目となる。そこで本報告では国際経済の科目の国際金融の項目内で、外貨建て保険の取り扱いについて考察する。
5	高橋桂子	実践女子大学	「金融リテラシー2016」の個票データを用いた知識と行動の関連	金融広報中央委員会が実施した「金融リテラシー調査2016」の個票データを用いて、金融に関する知識と行動の関連について検討した。金融に関する知識には、家庭科で学習する内容からなる「基礎知識」と社会科や経済知識、複利計算といった知識が必要となる「応用知識」の2つ、行動変数は金融に関する習慣、考え方などからなる態度・行動変数と病気・失業・不景気に備えた3か月分の生活費の確保などである。分析の結果、これら知識と行動に関連がみられた。また、簡単な設問は回答するが、文章が長くなったり、何を問われているか熟慮した回答が要求される設問では「わからない」の割合が増える傾向にある。思考力、読解力と金融リテラシーとの関連に関して研究を進めることも課題である。

会場アクセス

<https://www.iosai.jp/access/>